【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年10月18日(2007.10.18)

【公表番号】特表2007-504145(P2007-504145A)
【公表日】平成19年3月1日(2007.3.1)
【年通号数】公開・登録公報2007-008
【出願番号】特願2006-524843(P2006-524843)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　48/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/437　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ　471/04　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ　513/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　45/00
Ａ６１Ｋ　39/02
Ａ６１Ｋ　39/12
Ａ６１Ｋ　39/00　Ｈ
Ａ６１Ｋ　48/00
Ａ６１Ｋ　31/437
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　37/02
Ａ６１Ｋ　37/02
Ｃ０７Ｄ　471/04　１０５Ｃ
Ｃ０７Ｄ　513/04　３４３

【手続補正書】
【提出日】平成19年8月24日(2007.8.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
対象において抗原に対する免疫応答を引き起こすための併用薬であって、ＩＲＭ化合物と抗原を含み、ここで、
抗原に対する免疫応答を増強するのに有効な量のＴＬＲ８アゴニストＩＲＭ化合物が前記対象の投与部位に局所投与され、そして
前記抗原に対する免疫応答を引き起こすのに有効な量で、前記抗原を含有する医薬組成物が前記投与部位において投与される、前記併用薬。
【請求項２】
対象において抗原に対する免疫応答を引き起こすための併用薬であって、ＩＲＭ化合物

と抗原を含み、ここで、
抗原に対する免疫応答を増強するのに有効な量の前記ＩＲＭ化合物が対象の投与部位に局所投与され、そして
前記抗原に対する免疫応答を引き起こすのに有効な量で、前記抗原を含有する医薬組成物が前記投与部位において投与され、
前記ＩＲＭ化合物が、置換イミダゾキノリンアミン、テトラヒドロイミダゾキノリンアミン、イミダゾピリジンアミン、１，２－架橋イミダゾキノリンアミン、６，７－縮合シクロアルキルイミダゾピリジンアミン、イミダゾナフチリジンアミン、テトラヒドロイミダゾナフチリジンアミン、オキサゾロキノリンアミン、チアゾロキノリンアミン、オキサゾロピリジンアミン、チアゾロピリジンアミン、オキサゾロナフチリジンアミン、またはチアゾロナフチリジンアミンである、前記併用薬。
【請求項３】
ＩＲＭ化合物を含む、接種部位でのワクチンの投与を受けて対象によって引き起こされる免疫応答を増強するための医薬組成物であって、ここで、前記ワクチンに対する免疫応答を増強するのに有効な量の前記ＩＲＭ化合物が前記接種部位において前記対象に局所投与され、ここで、前記ＩＲＭ化合物が、置換イミダゾキノリンアミン、テトラヒドロイミダゾキノリンアミン、イミダゾピリジンアミン、１，２－架橋イミダゾキノリンアミン、６，７－縮合シクロアルキルイミダゾピリジンアミン、イミダゾナフチリジンアミン、テトラヒドロイミダゾナフチリジンアミン、オキサゾロキノリンアミン、チアゾロキノリンアミン、オキサゾロピリジンアミン、チアゾロピリジンアミン、オキサゾロナフチリジンアミン、またはチアゾロナフチリジンアミンである、前記医薬組成物。
【請求項４】
ＴＬＲ８アゴニストＩＲＭ化合物を含む、接種部位でのワクチンの投与を受けて対象によって引き起こされる免疫応答を増強するための医薬組成物であって、ここで、前記ワクチンに対する免疫応答を増強するのに有効な量の前記ＴＬＲ８アゴニストＩＲＭ化合物が前記接種部位において前記対象に局所投与される、前記医薬組成物。